

トキと自然の学習館 便り

～2月の出来事～

令和4年2月

VOL.52



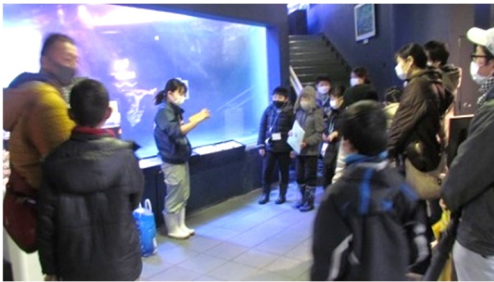
できごと
出来事

①

冬の海鳥を観察したよ！

2月20日、『寺泊海岸に生息する冬の海鳥観察会』を実施しました。市内の小学生を対象に、毎年開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年の開催は2年ぶりとなりました。当日は感染症対策を徹底して行いました。

寺泊水族博物館展望デッキからの景色は、あいにく雨模様でしたが、おかげで海岸付近はエサを探す海鳥がたくさん集まっていました。『長岡野鳥の会』の渡辺央先生によると、ほとんどがカモメの仲間のウミネコだということです。双眼鏡でじっくりと観察していた親子は「ウミネコとは違う色をしたくちばしの鳥がいたよ！」と、教えてくれました。



水族館の坂部学芸員からは、砂浜や海に落ちている様々なゴミを魚が食べてしまったら、その魚が死んでしまうだけでなく、魚をエサにしている海鳥やウミガメにも影響してくるということを教えていただきました。

その後、『トキみ〜て』に移動してトキの様子を観察してから、渡辺央先生による海鳥の話をお聞きました。



日本海や太平洋にいる海鳥や、絶滅してしまった鳥、絶滅から復活した鳥などの説明に、あらためて、私たち一人ひとりの行動が、生物に影響を与えているのだと実感しました。空も海も陸も、全てが繋がっているということ意識した、貴重な一日になったのではないのでしょうか。

はる 春のおとずれ

できごと
出来事

②

繁殖期が近くなるとトキの鳴き声がよく聞かれます。秋から冬にかけてはあまり鳴くことがないので、お客様から「どんな声で鳴くのですか？」と訊ねられることがあります。そんな時は「カラスのような鳴き声です。」とお答えしますが、実はトキの鳴き方はひとつではありません。カラスのように長く「ぐあー」と鳴いたり、赤ちゃんとおどろいしそうなやさしい声で「たあー」と鳴くこともあります。時には「ウオウオウオウ」と短く、何回も鳴くこともあります。健康観察をするために捕獲した時は、「ぐうあ〜〜！！」という腹の底から絞り出すような叫びを聞きました…。今の季節は、求愛やなわばりを守るために出す鳴き声が多いようです。

